

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：11201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04109

研究課題名(和文) <戦後>韓国映画における「植民地」表象と日韓における変容

研究課題名(英文) Viewing in Japan and Korea and Representation of 'Colonial Period' in Korean Post-war Cinema

研究代表者

梁 仁實 (YANG, INSIL)

岩手大学・人文社会科学部・准教授

研究者番号：20464589

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では近年韓国で作られた「植民地の記憶」をめぐる映像は韓国の近現代史のなかで忘却されていた様々なマイノリティーや名のない人々を呼び起こしていることを明らかにした。さらにこうした呼び起こしがジェンダーやエスニシティ、地理的想像力の境界を超えていることも明らかにした。とりわけ、今まで男性「英雄」や一部の女性による歴史の語りも映画にも反映されてきたが、近年韓国のフェミニズムやジェンダー、Me Too運動に刺激され、女性たちの連帯、「名もなき」民衆の主体的な力による独立運動が描かれているのが近年の韓国映画における「植民地」表象の特徴であることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

植民地期を描く韓国映画についての研究はいままで反日/親日の二分法的フレームから見られ、そのなかの様々な関係の力動性やジェンダーの政治性に注目するものは少なかった。本研究では近年ME TOO運動などに触発され、新たな歴史の書き手として浮上した女性や名のなき民衆たちの描き方が韓国映画のなかでも変化していくことに注目し、そこから新しい連帯をみつけようとした試みであった。さらに、こうした新しさが様々なマイノリティーへの記憶と表象の問題まで召喚し、歴史の主題の問題を映画が提示していることも明らかにしたことに本研究の学術的意義がある。

研究成果の概要(英文)：In my research examined the recent Korean cinema about "Memorial Colonial Period" made it clear that the various minority forgot in the Korean contemporary history and nameless people are named in recent Korean cinema. And I also explored that naming cross more various boundaries, gender, ethnicity, geographical imagination, nation-state, etc. Furthermore, Korean colonial period in recent Korean cinema represent the history of the hero(heroine) is changing into the image by the women and the subjective power of the nameless people.

研究分野：社会学

キーワード：日韓 映画 植民地 ジェンダー マイノリティー 歴史の主体

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は戦後韓国映画において「負の記憶」である植民地をめぐる表象がどのように交差し、重複され、受け継がれているのかについて調査するとともに「帝国」の記憶をもつ日本においてどのように置き換えられた形で変容して受容されてきたかを社会学的視点から明らかにすることから始まったものである。具体的には、韓国において戦後制作された映像テキストのなかに現れる「帝国 植民地」都市や空間、人々についての表象がトランス・ナショナルな形で様々な境界を超えていることに注目した。また、韓国の植民地をめぐる文化的記憶が「帝国対植民地」の図式ではない新たな表象を作り出し、その消費の過程で個人の記憶と結びつけられ、日韓両国でノスタルジアを召喚する役割をするようになったことについても考察していく。

2. 研究の目的

本研究では上記した背景をもとに<戦後>韓国の映画において「帝国 植民地」といった「負の記憶」と帝国日本の文化記憶が日韓において「死なない過去」として残っていることに注目しながら、その表象と受容過程においてどのような文化のポリティクスと力学が働いてきたかを明らかにする。そのために、本研究では「植民地の経験」をもつ韓国において<戦後>作られた映像作品において同時代の記憶がどのように表象されているのかについて考察し、その表象が現在どのように交錯し、受け継がれているのかについて考察することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究ではまず、第一、<戦後>韓国で制作された映像作品とそれをめぐる受容過程、そしてそのなかの「負の記憶」と「帝国 植民地」との関係性を調べるために、韓国映像資料院、韓国国立中央図書館などに行った。そして、それらの成果を発表する場を様々な分野からの研究者たちの知的アドバイスを受け入れ、こうした表象が現在の日韓に限らず、在日二世の自己表象映画にも影響を与えていることを明らかにした。また、こうした映画が日韓で受容される際の変容の過程などについて、映像作品に限らず、文献資料なども調べた。

4. 研究成果

本研究を進めていくうちに明らかになった研究成果は以下の通りである。

(1) 2017年度は近年韓国で作られた「植民地の記憶」をめぐる映像は韓国の近現代史のなかで忘却されていた様々なマイノリティーや名のない人々を呼び起こしている。特に、植民地期を時代的背景とする韓国の映像物のなかで今まで女/性は独立運動する男/性のサポート役(助演)としてしか登場しなかった。しかし、こうしたジェンダー秩序は近年の映像物において崩れ始め、様々な境界と限界を超える試みが行われている。ここで新しい女/性像がどのような空間でいかなる新しい表象を作り出しているのかに注目し、さらにエスニシティの境界、ローカルな境界、空間の境界、ナショナルな境界を乗り越える新しい女/性像(人物像)が作り出されつつある。

(2) 2018年度はさらに、対象領域を広げ、近年制作されつつある韓国映画は日本でどのように受容されているのか、日本においては戦後直後朝鮮映画がどのように受け入れられていたのか、植民地朝鮮で映画事業を行っていた在朝日本人はどのようにそれらを実行していたのかという3点について研究し、成果を公開した。

さらに、各研究においては、1)植民地を描く韓国映画が異性愛/同性愛、親日/反日、朝鮮語を話す日本人/日本語を話す朝鮮人など様々な境界を崩しながら多様な歴史へのアプローチが行っているのに対し、日本に受容されるときは既存の「親日/反日」フレームに注目されること、2)戦後日本において朝鮮映画はどのように認識されていたのかを考えるため、1950年代半ばいわゆる左翼知識人/文化人たちが編集していた雑誌『ソヴェト映画』の分析を通して、戦後日本のなかで忘れられていた「朝鮮/映画」とはいかなるものなのかを考察し、3)植民地朝鮮の京城で映画興行にかかわっていた在朝日本人のうち、今も現存している明洞芸術劇場(旧明治座)の歴史を辿り、植民地期朝鮮映画の複雑で重層に絡み合う映画興行界について考えた。

(3)2019年度は近年韓国で制作されている「植民地期」の独立運動とジェンダーの問題、1970年代の日本で作られた「在日」映画で「植民地期」とその直後がどのように表象されていたのか、「植民地期」当時、植民地朝鮮の地方(釜山)に住んでいた在朝日本人たちはどのようにして映画に係ることができたのか、という3つの問題意識に合わせて研究を進めた。

これらの研究においては、今まで男性「英雄」や一部の女性による歴史の語りも映画にも反映されてきたが、近年韓国のフェミニズムやジェンダー、Me Too運動に刺激され、女性たちの連帯、「名もなき」民衆の主体的な力による独立運動が描かれているのが近年の韓国映画における「植民地」表象の特徴であることを明らかにした。さらに、1970年代日本のなかで「在日」として初めて映画を作っていた李学仁の作品が沖縄の上映運動により東京や大阪よりも多くの反響を呼んだことに着目した。これは1)と同じようにマイノリティ

(沖縄、「在日」) 同士の連帯の視点から日本帝国の歴史を考え直そうとする動きでもあった。また、植民地朝鮮において映画製作の中心地である京城でなく、釜山で映画を作った在朝日本人に着目した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 梁 仁實
2. 発表標題 戦時中日本におけるトウホク/東北の発見と回遊
3. 学会等名 三大学学術交流大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 梁 仁實
2. 発表標題 韓国映画における「負の記憶」と日本への受容
3. 学会等名 タイ国日本研究国際シンポジウム2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 YANG INSIL
2. 発表標題 忘れられた過去の記憶と朝鮮/映画-雑誌『ソヴェト映画』を中心に
3. 学会等名 第9回世界韓国学大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 梁 仁實
2. 発表標題 『忘却』と『記憶』の狭間で-雑誌『ソヴェト映画』にみる映画人たちの「戦後」認識
3. 学会等名 日本フランス語文学会東北支部大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YANG INSIL
2. 発表標題 Hybridity of Keijo in Cinema-The Representation of the Colonial City of Kyeongseong
3. 学会等名 Nation,Gender and History:Asian Cinemas in Perspective (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 梁仁實
2. 発表標題 在日二世の「祖国」と「青春」、そして「女性」- 李學仁の作品世界
3. 学会等名 東国大学校文化学院院 叙事文化研究所 学術大会<在日朝鮮人が/を語る> (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 YANG INSIL
2. 発表標題 'Homeland' and 'Youth' of the Second Generation of Korean Resident in Japan(Zainichi):The Stranger's River and Its
3. 学会等名 Third International Conferenceof the Tuebingen Global Korea Project (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梁 仁實
2. 発表標題 韓国映画における植民地都市京城と女/性の表象
3. 学会等名 第14回国際高麗学会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 梁 仁實	4. 発行年 2019年
2. 出版社 韓国学中央研究院出版部（ソウル）	5. 総ページ数 197（担当37-55）
3. 書名 明洞 街角の文化史	

1. 著者名 金絃洙、梁仁實、趙基銀共訳（日本語から韓国語へ）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ソニン（SEOUL）	5. 総ページ数 501（担当 377-463）
3. 書名 植民地朝鮮の警察と民衆世界 1894-1919	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----